

むさしの・ガーデン紀行 令和4年度 登録計画実施報告書

むさしの・ガーデン紀行連絡協議会 令和5年3月



むさしの・ガーデン紀行
MUSASHINO GARDEN JOURNEY

■具体的な事業の実施状況

1) 森の地図スタンプラリーの実施

第18回 ー玉川上水とその周辺を訪ねる編ー 令和4(2022)年4月23日(土)～6月12日(日)

第19回 ー湧水(ハケ)と多摩川をめぐる編ー 令和4(2022)年10月1日(土)～12月4日(日)

むさしの・ガーデン紀行の基幹活動である「森の地図スタンプラリー」を春・秋の2回行った。昨年度と一昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために春開催のみの年1開催であったが、今年度は、コロナ感染状況を注視しつつ、ウィズコロナの時代にも適した健康促進活動の位置づけで行った。昨年度(2021年)との数字的比較は下表の通りである。昨年度は、デジタルスタンプラリーの参加者数が大幅に増加したが、今年度は、逆にリアルスタンプラリーの参加者が大幅に伸び、トータル数では過去最多の参加者数となった。これは、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたことで、イベントへの参加意欲が復活したことの表れと思われる。イベント自体が戸外のオープンスペースを中心に行われるもので、ウィズコロナ、アフターコロナの時代にも相応しいものであることが確認できた。

	開催日数	方式	参加者数	応募者数	施設訪問数
2021年 (17回)	51日間	デジタルスタンプ	784名(登録者)	254名(参加賞)	2,910(実数)
		リアルスタンプ	1,439名(延人数)	191名(参加賞)	1,439(実数)
		合計	2,223名(推定)	445名(実数)	4,349(実数)
2022年 (18回)	51日間	デジタルスタンプ	1,057名(登録者)	522名(参加賞)	5,951(実数)
		リアルスタンプ	3,802名(推定)	313名(参加賞)	3,443(推定)
		合計	4,859名(推定)	835名(実数)	9,394(推定)
2022年 (19回)	65日間	デジタルスタンプ	1,112名(登録者)	430名(参加賞)	4,623(実数)
		リアルスタンプ	3,928名(推定)	511名(参加賞)	5,621(推定)
		合計	5,040名(推定)	941名(実数)	10,244(推定)



●アフターコロナの時代のあるべきイベントのスタイル検証もかねて、デジタルとリアルの併用スタイルで行った。併用は、全世代の参加にも力を発揮した。

●デジタルでは、スマートフォンのGPS機能を使い、ラリーポイント圏内でスタンプを取得できる。

●スタンプラリー開催期間中のオープンカフェ&パネル展示会場では、日時限定のスペシャルスタンプ(リアル)を設置した。

2) モデルコースの策定

昨年度の2コースに続き、本年度は、春に2コース、秋に2コースの4コースを策定し、その検証のためのモニターツアーを行った（一部悪天候で中止）。このコースは、第18回と19回の森の地図スタンプラリーと連動したもので、ラリーポイントとなっている構成庭園（施設）を中心に地域を巡るものである。コースの設定にあたっては、地域を初めて訪れる人を想定し、できるだけ分かりやすいものとした。また、地域との連携で、ランチや休憩時、テイクアウトのお弁当などに利用できる店舗をコース上に組み込んだり、地域の知られざる絶景ポイントを紹介するものとした。

●テーマ「花と玉川上水さんぽ」

むさしの・ガーデン紀行の主題のひとつ「玉川上水」をテーマにしたコース。玉川上水の上流部、小平市近辺をを回遊。上水小橋の親水エリアや東京都薬用植物園、森田オープンガーデンなどをめぐる。



●テーマ「水をめぐる旅。江戸、そして東京。」

東京都の水の歴史を体感できるトリップ。多摩湖自転車道と呼ばれている狭山・境緑道（水道道路）と玉川上水緑道を結びつけたユニークなコース。サイクリングで一日。徒歩なら2日がおすすめ。



●テーマ「湧水（ハケ）をめぐる旅」

むさしの・ガーデン紀行のもうひとつの主題「国分寺崖線」をテーマにしたコース。構成庭園の殿ヶ谷戸庭園や滄浪泉園を始め、貫井神社、お鷹の道などハケと呼ばれる湧水の地をめぐるもの。



●テーマ「秋の多摩川・自転車さんぽ」

多摩川サイクリングロードを軸に狛江市から調布市、府中市をめぐる。新東京百景に選ばれた地、狛江の五本松や二ヶ領上河原堰、オギの群落、富士ビュースポットなどの絶景も楽しめる。



3) モニターツアーの実施

前述のモデルコースを実践するモニターツアーを行った。コロナ感染予防対策とツアーの安全性を重視し、各回の定員を10名とした。昨年度の発展形として、今年度は、有料（3,000円）で行ったが実施した2ツアーでは、応募が定員の2倍程度あった。ツアー後に詳細なアンケートを実施。結果を分析することで、今後の継続的なモデルコース策定やガイドツアー実施の貴重なデータが得られた。

4) オープンカフェ&パネル展示の実施

昨年度の継続事業として、実施場所と実施時期を分散するイベントを実施した。密にならない屋外でパネル展示を行い、むさしの・ガーデン紀行の取り組みと地域の魅力を様々な角度から紹介した。また、パネル展に合わせて、ランチや休憩に利用できるカフェ空間を創出した。事務局、観光協会、構成庭園、キッチンカーや地域店舗との協働で行われ、今後の地域に根差した取り組みに資するものとなった。



●都立武蔵国分寺公園での会場



●都立小金井公園での会場



●都立井の頭恩賜公園での会場

■その他の事業

1) 官民連携まちなか再生推進事業

「むさしの・ガーデン紀行」の計画を実行していくにあたって、計画が地域に根差した活動となることを意図し、国土交通省が実施する「官民連携まちなか再生推進事業」に令和3年度に続き応募し採択された。昨年度は、地域の未来ビジョンの新規策定に向けた検討（中間案の策定）を行ったが、今年度は、実証実験や勉強会等を経て最終案の策定までを行った。

実施事業者	対象エリア	事業概要
むさしの・ガーデン紀行 連絡協議会 (東京都小金井市他)	東京都西部地域	ウィズコロナ・アフターコロナの時代にも、「オープンスペースで健康的で多様な楽しみを享受できる東京のオアシス的な場所」、「様々な主体が個性を活かした活動を行うことで、地域経済が潤う場所」、「エリア全体がひとつの大きなガーデンのような存在となり心おだやかな日常を享受できる場所」を目指し、未来ビジョン等の新規策定に向けた検討を行う。

※国交省発表資料の部分抜粋

●未来ビジョンの策定に向けて行った取り組み

- ・基礎データの収集：地域の現状と他都市の取り組みの把握
- ・ヒアリング、勉強会の実施：むさしの・ガーデン紀行連絡協議会を構成する施設管理者や関係する自治体、観光協会が抱える課題の共有と「むさしの・ガーデン紀行」の目指す方向性や実証実験の内容について意見を聴取した。また、持続可能な体制構築のための勉強会を行った。

●むさしの・ガーデン紀行の未来ビジョン（別資料あり）

みんながつながる「ひとつの大きなガーデン」 ～東京のまんなかにある水と緑と歴史の回廊～



●未来ビジョンのイラスト



●協議会での未来ビジョンの検討

ポジション	役割			
	協議会と りまとめ	実行委員 会の運営	資源提供	具体的役割
協議会 実行委員 会・事務局	○	○		- コンセプトに沿った取組みの選定 - 取組み間の調整 - 情報発信・拡散の管理 - 各団体から挙がるニーズ等の整理・共有
公園指定 管理者		○	○	- 管理する公園資源の活用 - 利用者ニーズのくみ上げ - 具体の取組みの運営・管理
協議会メン バー		(☆)	○	- 地元の商店主等の取組みニーズのくみ上げ - 具体の取組みの運営・管理 - 実行委員会メンバーの調整 【事務局案】 ☆交代制で協議会実行委員会運営に参画
自治体			○	- 地域のニーズのくみ上げ - 関連事業との連携支援
構成庭園			○	- 施設等の資源提供 - 利用者ニーズのくみ上げ

●協議会構成員の役割

2) 今後の展開と課題

策定した未来ビジョンをテコにして、むさしの・ガーデン紀行の取組みを推し進める。当面の主な課題は下記である。

- ・持続的な事業運営のための組織づくり
- ・協議会内の情報の共有、発信の強化と地域ブランディングの促進
- ・交通事業者など地域の多様な主体（ステークホルダー）との連携
- ・収益基盤の確立（協賛企業の獲得、ファンクラブの創設、有料の公式ガイドブックの発行、ガイドツアーやマルシェ等の充実）

むさしの・ガーデン紀行 未来ビジョン

みんながつながる「ひとつの大きなガーデン」
～水と緑と歴史の回廊～

2023年3月



むさしの・ガーデン紀行
MUSASHINO GARDEN JOURNEY

1

目次

地域の特長と課題

『未来ビジョン』の位置づけ

『未来ビジョン』のビジョン

『未来ビジョン』の目指す姿

『未来ビジョン』の全体構成

地域（むさしの）の特長と課題

【特長】

- ・ 東京都多摩地域の東部に位置し都心部にも近接
- ・ 国分寺崖線（ハケ）と玉川上水が緑のベルトを形成する東京のオアシス空間
- ・ 都立公園等が多数立地し、緑の中で市民が憩い、活動するオープンスペースに恵まれている



【課題】

- ・ 複数の市が隣接し、市境にとらわれない生活・観光行動が見られ、エリア全体を俯瞰・連携した取り組みが必要
- ・ 多数存在する地域資源の連携による更なる魅力の向上が必要



エリア内での取り組みの状況

- ・ 行政や公園指定管理者や観光協会、地域団体、ボランティア等の様々なプレイヤーがエリア内で活動し、エリアの活性化に資する取り組みを実施
 - 公園緑地を活用したイベント、ボランティア活動、パークガイド等

【主な取り組み団体】

分類	具体の団体
行政	東京都、小金井市、国分寺市、府中市、武蔵野市、調布市、三鷹市
観光協会	小金井市観光まちおこし協会、みたか都市観光協会、調布市観光協会、府中観光協会、こくぶんじ観光まちづくり協会、武蔵野市観光機構
公園指定管理者、施設管理者等	東京都公園協会、西武・武蔵野パートナーズ、東京都動物園協会（井の頭自然文化園）、東京都歴史文化財団（江戸東京たてもの園）等
民間団体	ボランティア団体、学生団体、武蔵野コッツウォルズ等の地域活動団体



「森の地図スタンプラリー」の取り組み

- ・「むさしの」の魅力ある環境を周遊する取り組みとして、2012年から「森の地図スタンプラリー」がスタート
- ・東京都公園協会、西武・武蔵野パートナーズ、武蔵野コッツウォルズの3者が「森の地図スタンプラリー実行委員会」として、取り組みを推進
- ・地域の観光協会や自治体が取り組みをバックアップ、地域貢献に資する協力関係を構築
- ・「ゆっくり、のんびりと街を巡る」のコンセプトのもとエリア内の様々な公園、庭園のみならず、博物館、美術館、大学、寺社、カフェ等をラリーポイントとして広域連携を促進
- ・2020年に「むさしの・ガーデン紀行」としてガーデンツーリズム制度に登録となり、国とも連携した取り組みに進化

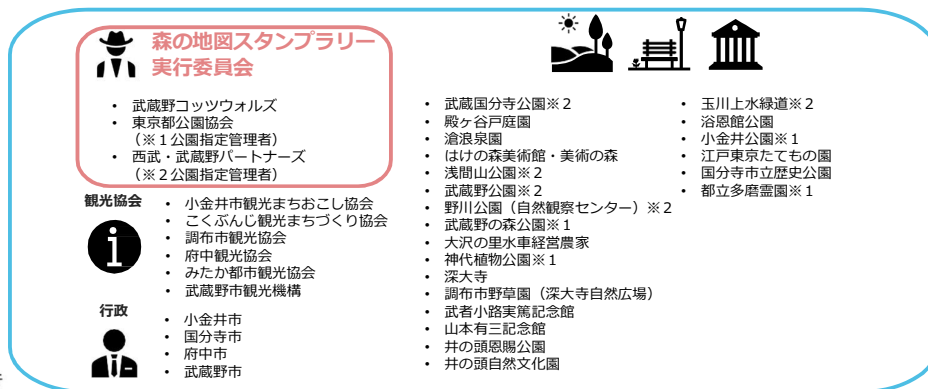


広域回遊（森の地図スタンプラリー）の効用

参加者 （住民・来訪者）	・レクリエーション（withコロナ、アフターコロナ） ・健康増進、出逢いの創出 ・地域を知る、発見を楽しむ ・くらしの中の非日常体験、ちいさな旅（マイクロツーリズム）
公園・施設所有者	・来訪者の増加、利用者サービスの充実 ・利用者の満足度向上 ・地域連携の促進 ・ブランドや施設価値向上 ・PR、認知度向上
観光協会	・恒常的なイベントの創出 ・来街者の増加、地域回遊に誘導 ・地域連携の促進 ・プレイヤーの発掘 ・広域的な情報発信
行政（6市・都）	・関係人口の増加（広域回遊） ・住民の健康増進、医療費節減 ・地域価値向上（むさしのブランド） ・サステイナブルな環境の創出
近隣事業者・大学等	・地域のにぎわい向上による売り上げ増加 ・地域連携の促進 ・PR、認知度向上

「むさしの・ガーデン紀行」とは

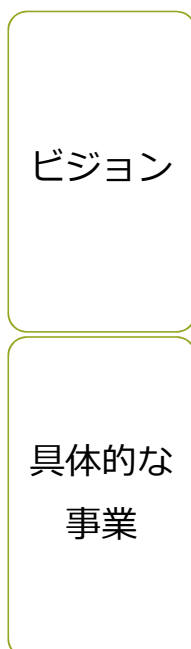
- 「森の地図スタンプラリー」で培ったエリア内の協力関係をもとに、さらなる取組みの推進を目指して、「**むさしの・ガーデン紀行**」として国土交通省のガーデンツーリズム登録制度に申請・登録(全国で10番目、東京都では初)
- 地域全体をひとつの大きなガーデンとして捉え、森の地図スタンプラリーを核とした様々な活動を展開することを目標



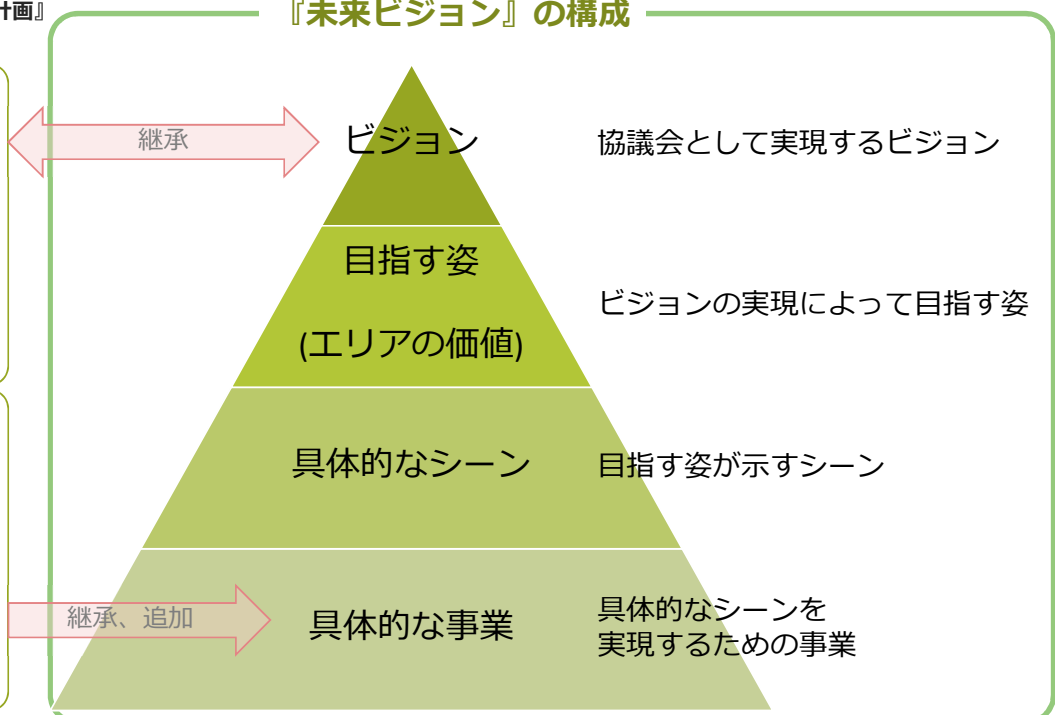
『未来ビジョン』の位置づけ

『未来ビジョン』の構成

＜参考＞
『庭園間交流連携促進計画』
の構成



『未来ビジョン』の構成



むさしの・ガーデン紀行が目指すビジョン

みんなが

つながる

「ひとつの大きなガーデン」

～水と緑と歴史の回廊～



むさしの・ガーデン紀行
MUSASHINO GARDEN JOURNEY

目指す姿（エリアの価値）

【むさしの・ガーデン紀行が目指すビジョン】

みんながつながる「ひとつの大きなガーデン」
～水と緑と歴史の回廊～

みんな

来訪者 寺社
観光協会 公園
行政 美術館
大学 店舗
子ども 道・駅
住民 自然
博物館
地元企業

で

たのしむ

くつろぐ

みつける

そだてる

を

目指す
作り出す



むさしの・ガーデン紀行
MUSASHINO GARDEN JOURNEY

“たのしむ”ことが生み出すシーン

- “回廊”を頼りに、初めて来訪した人でもエリアの魅力を感じることができる【回遊促進】
- 常にだれかが、新しい楽しみ方を試している【魅力発掘】
- “回廊”を中心に、居住者や来訪者、事業者などの間で多様な交流が生まれ、エリア全体ににぎわいが広がる【にぎわい】
- イベントや活動を通じて、魅力を自ら体験できる【体験】
- 食文化やおいしい食べ物、飲み物を通じて、“むさしの”の魅力を堪能できる【食】



“くつろぐ”ことが生み出すシーン

- 自然や文化、エリアの各所で発生する様々な活動が、日常を豊かにする【くらし】
- 居心地の良い場所で、佇むことができる【滞留空間】
- 仲間、地域の人、見ず知らずの人、関係性に応じた心地よい居場所を見つけることができる【交流】
- ウィズコロナ、アフターコロナの時代にも安心な野外空間で活動ができる【オープンスペース】



“みつける”ことが生み出すシーン

- エリアの魅力的なコンテンツを広く共有・発信し、より多くの人を楽しさを知ることができる【情報発信】
- 気付かなかった身近な魅力を発見できる【発見】
- 偶然、予期せぬモノ・コト・ヒトに出会い、新しい刺激を得ることができる【出会い】
- エリアについての情報・知見が、体験を通して蓄積されていく【学習】
- 都心のオアシス空間として、新しい働き方をみつける、つくりだす【働き】



“そだてる”ことが生み出すシーン

- 緑豊かな環境で様々な体験をしながら、子どもたちが育っていく【子育て】
- 空間の普段使いやイベント、様々な活動を通じて、ココロとカラダを育てる【健康】
- 地域の自然が維持保全され、持続的に活用される【環境】
- 地域活動や緑の維持保全を通じて、管理側と利用者側が共に地域を育てる【協働】
- 社会課題を解決する地域のコミュニティを育む【コミュニティ】



様々な事業のベースとなるキーワード (=むさしの・ガーデン紀行の世界観)

取組みで重視すべき雰囲気

憩い のんびり ゆっくり

取組みによって生まれるアクティビティ

めぐる

出逢い

発見

“むさしの”の魅力

“むさしの”の資源

取組みを支えるコンテンツ



今後の事業の発展のステップ

Before



各プレイヤーが個別で活動

After : Step1



連絡協議会を核として、
各プレイヤーの活動が連携
⇒個々の活動に**プラスα**と
なる**新たな魅力**

After : Step2



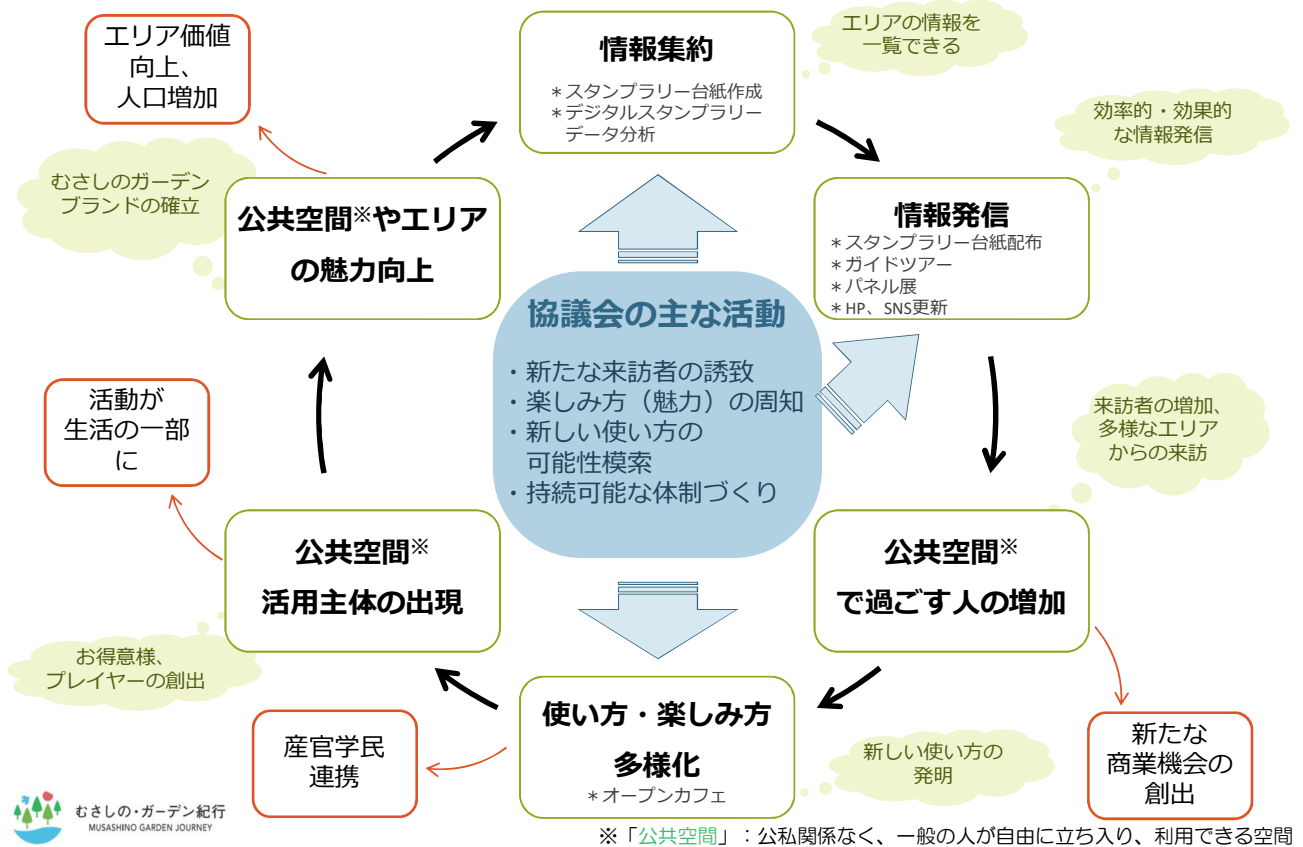
各プレイヤーの協力・連携を
ベースとして、**新しい取組み
にチャレンジ**

＋
新たな取組みへのチャレンジ
を通じた**プレイヤーの拡大**



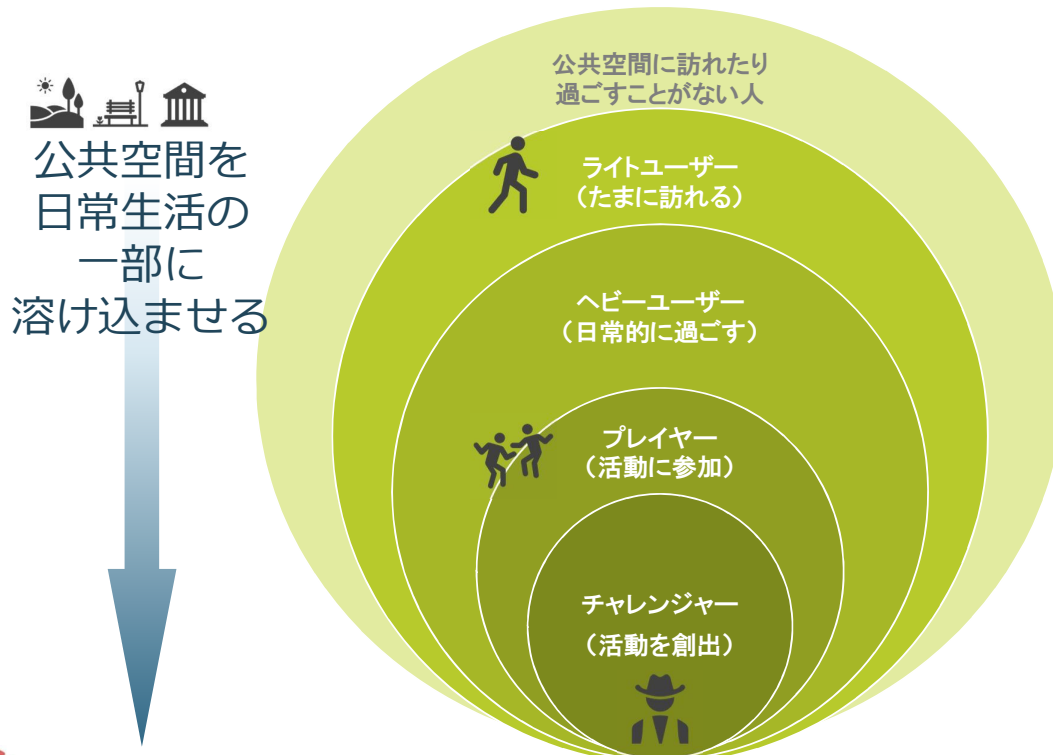
『未来ビジョン』がもたらす

好循環（イメージ）



『未来ビジョン』で生み出す

公共空間※で過ごす人（イメージ）



“たのしむ”ことが生み出すシーン



緑あふれる公園などのオープンスペースでそれぞれが思い
思いの過ごし方をする



むさしのの環境を活かして、新しい楽しみ方を作っていく

“くつろぐ”ことが生み出すシーン



「むさしの」ののんびりとした環境で思い
思いの時間を楽しむ

休息／運動／趣味／仕事／団楽／レジャー

“みつける”ことが生み出すシーン



「むさしの」の自然の中で季節の
移り変わりなどを発見する



「むさしの」の歴史資源で今まで
知らなかったことを発見する



むさしの・ガーデン紀行
MUSASHINO GARDEN JOURNEY

“そだてる”ことが生み出すシーン



「むさしの」の環境を守り、育て、
維持する人が育っていく



「むさしの」の環境の中で子どもたちが
すくすくと豊かに成長していく



むさしの・ガーデン紀行
MUSASHINO GARDEN JOURNEY



将来のビジョンでの取組みのイメージ(案)

ポジション		役割			
		協議会とりまとめ	実行委員会の運営	資源提供	具体的な役割
協議会実行委員会・事務局		○	○		- コンセプトに沿った取組みの選定 - 取組み間の調整 - 情報発信・拡散の管理 - 各団体から挙がるニーズ等の整理・共有
協議会メンバー	公園指定管理者		○	○	- 管理する公園資源の活用 - 利用者ニーズのくみ上げ - 具体的な取組みの運営・管理
	観光協会		(☆)	○	- 地元の店主等の取組みニーズのくみ上げ - 具体的な取組みの運営・管理 - 実行委員会メンバーの調整 【事務局案】 ☆交代制で協議会実行委員会運営に参画
	自治体			○	- 地域のニーズのくみ上げ - 関連事業との連携支援
	構成庭園			○	- 施設等の資源提供 - 利用者ニーズのくみ上げ

将来のビジョンでの取組みのロードマップ

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度以降
協議会運営	2022年度と同体制で運営	実行委員会・事務局に各自治体の観光協会が年度交代で参画 ※協議会メンバーのニーズに応じて、事務局メンバーは柔軟に調整				
森の地図スタンプラリーを核とした取組み	沿線交通事業者と連携した取組みの試行	沿線交通事業者と連携した取組みの本格実施・拡大				
協議会メンバーによる取組み	協議会メンバー各自での取組みを推進、適宜協議会メンバー間でコラボレーション					